

東京都23区における在留外国人の地理学的考察

浅野 しの

本論文は、近年急増している在留外国人について、彼らの実像を実証的に明らかにすることを目的とする。その際、東京23区をフィールドに選定し、そこでかれらの地域的展開に焦点をあて主に地域統計学の手法を用いることによって、地理学的な考察を試みたものである。

1988年以降日本への外国人入国者数は急増し、東京23区においても同様に増加傾向が見られるが、これは主にアジア・南米出身者によるものである。

日本における在留外国人の地域的展開を見ると1988年と1991年で大阪圏と東京圏の構成比が逆転するという東京一極集中化現象が見られる反面、地方圏の増加率特に首都圏周辺部での増加が著しい。

東京23区においては、1978年から1991年について、集中指数は大きな変化を示していないため特定の区に著しく集中するという傾向は見られないが、88年以降総数が増加しているにもかかわらず、集中指数は低くなっていることからさらに分散する傾向にあることが分かる。

この分散傾向を構成比及び増減率からみると、周辺部（特に北東部）において拡張していることが分かる。この周辺部の諸区は、増減率では平均

値以上であるが、総数では平均値未満であるグループに属するものである。

更に、特化係数を算出することにより、出身国別、区別に特化性が見られた。出身国別（上位20ヶ国）では、その特徴から①1区特化型②西部特化型③北西部特化型④北東部特化型⑤南部特化型。区別では、その特徴から①アジア特化型②欧米特化型③バランス型④1区特化型に分類でき西部地域一帯は欧米出身者が多く、東部地域一帯はアジア出身者が多いということが明らかになった。

現分布状況に至までの経緯を円積図から見た結果、①初めは中央に集中し周辺部方向へ徐々にドーナツ状に拡張していく型②初めは西部エリアに多く東部エリアが徐々に匹敵していく型③西部エリアに徐々に特化していく型④初めは分散しているが徐々に周辺部へ特化していく型⑤初めは分散しているが、近年一気に周辺部へ特化していく型のパターンがあることが分かった。

このような地域展開をもたらした要素として在留外国人の職種、23区内の平均家賃、地価の考察により、アジア・南米出身者が主に就いている産業（製造業、建設業、サービス業等）の事業所の分布、低家賃、地価と外国人登録者の現分布状況はおよそ一致するという結果が得られた。